

問合わせ先

第二管区海上保安本部海洋情報部

監理課長 長尾 道広

電話 022-363-0111 (内線 2510)



平成23年9月12日

第二管区海上保安本部

釜石港の水深測量の成果がまとまりました

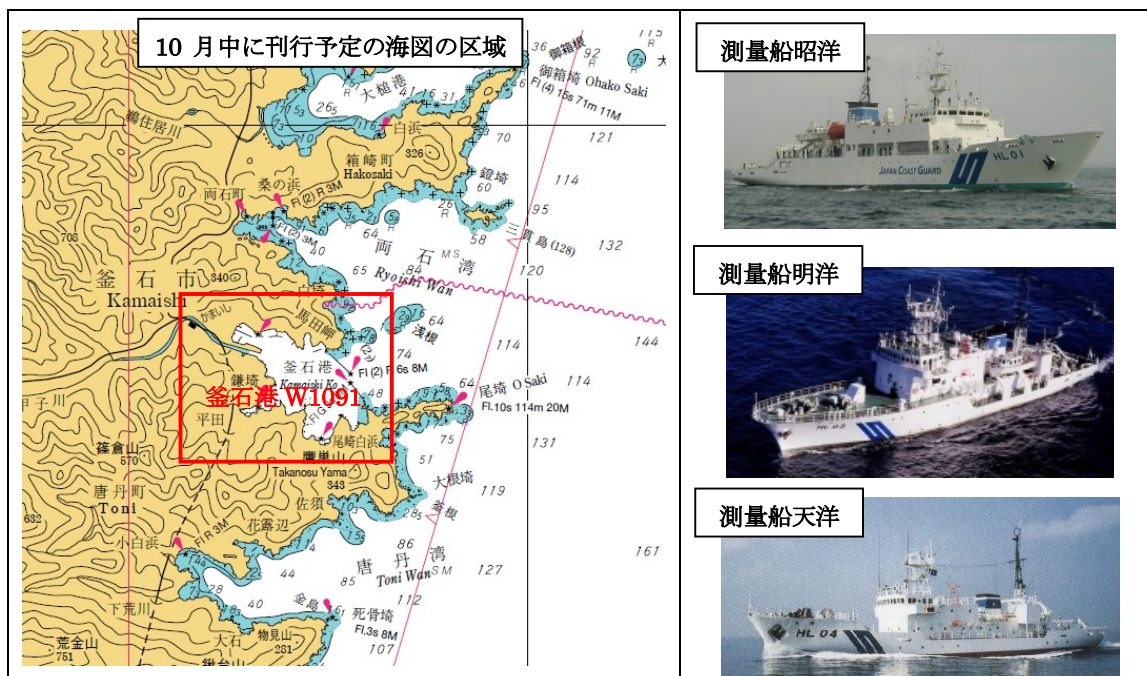
釜石港における航路及び主要な岸壁付近の精密な水深測量の成果がまとまり、湾口防波堤基部の損壊状況など、港内の海底の現状を正確に把握できました。

第二管区海上保安本部では、東北地方太平洋沖地震により被災した管内の港湾について、水深の変化や海底の障害物の状況等を把握し、海図に反映するため、水深などの測量を実施しています。

今般、4月中旬から6月下旬にかけて海上保安庁測量船「昭洋」(3,000トン)、「明洋」(550トン)、「天洋」(430トン)により実施した釜石港における測量データの解析処理が終了し、以下のとおり、航路などの詳細な状況が明らかになりました。

- (1) 港内の水深20mより浅い部分では、水深が全体的に0.3~1m程度深くなっていることが分かりました。しかし、沖側の水深20mより深い部分では、震災前の水深と比較して、ほぼ変化はありませんでした。
- (2) 湾口防波堤の入り口の潜堤があった箇所について、震災前は約19mであった水深が、約35mになっていることが確認されました。
- (3) 一部の海域では、水深の減少や海底に異状物が確認されました。これらについては、航行の安全のため、二管区水路通報で周知を行っています。

海上保安庁では、これらの成果を反映し改訂した海図を10月中に刊行する予定です。



釜石港 測量成果

別紙

